

高次脳機能障害とは



平成28年10月14日
所沢

国立障害者リハビリテーションセンター
中島八十一

高次脳機能障害の定義(行政的)

若年性痴呆？

脳外傷？

認知障害？

外傷性脳損傷？

『記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害を主たる要因として、日常生活及び社会生活への適応に困難を有する障害を行政的に高次脳機能障害と呼ぶ。』

* 高次脳機能障害支援モデル事業評価基準作業班

見えない障害

- 見えない
- 外見からは分かりにくい
- 社会に出てから初めて気付かれる



見えない障害と隠れた障害

- ・見えない

外見からは分かりにくい

社会に出てから初めて気付かれる

- ・隠れている

利き手が使えない、の陰には・・・

歩けない、の陰には・・・



症例 45歳 男性

43歳 山で転落 意識消失状態で発見

県立中央病院に2か月半入院。右腕神経叢麻痺に対してリハを受けた。退院後身障手帳2級を取得

その後自宅にて生活。記憶障害、情動不穏が目立ち就労困難とされていた。

45歳 近医の勧めで他県の高次脳機能障害支援拠点機関を受診。高次脳機能障害として精神手帳2級を取得するとともに、障害者職業センターで高次脳機能障害者として訓練開始

高次脳機能障害の診断方法

原因疾患から高次脳機能障害の存在を疑う

- 脳血管障害
- 頭部外傷
- 窒息(喘息発作、心肺停止 他)
- 脳腫瘍術後
- 脳炎

いつ発症したか特定できる
後天性脳損傷(ABI)



どのような症状が見られるのか

⇒ 見えない障害

- 見えない
- 外見からは分かりにくい
- 自分から訴えることはない
- 社会に出てから初めて気付かれる



⇒ 見慣れない行動に気付く

⇒ 実は見える

記憶障害

できないこと

- 思い出せない...
- すぐ忘れる

見えない



その結果、行動に現れること

- 同じことを繰り返し質問する⇒聞く方はうるさい
- 不安から他人に急いで内容を伝えようとする
- 作り話でごまかす

記憶障害

できないこと

- 思い出せない...
- すぐ忘れる

対応困難

対応が可能

行動に現れたこと

- 同じことを繰り返し質問する⇒聞く方はうるさい
- 不安から他人に急いで内容を伝えようとする
- 作り話でごまかす

注意障害

できないこと

- 集中できない
- ミスばかりする
- ふたつのことを同時にできない

対応困難

その結果、行動に現れること

- あくび、うんざりした
- 雑音や気を散らす者にあたる
- 早く終わって欲しいと訴える

対応が可能

遂行機能障害

できないこと

- 自分で計画を立てて実行することができない
- 指示してもらわないと何もできない
- 約束の時間に間に合わない

その結果、行動に現れること

- 言われたこと(通りに)しかできない
- 指示を待っているのだと言い張る
- 幼稚な行動を見せる



情報処理速度（頭の回転） の障害

対応困難

できないこと

- 情報処理速度の鈍化
- 精神運動活動（歩行、書字、他）の鈍化

その結果、行動に現れること

対応が可能

- 急かされることで怒り出す
- 会話についていけず、不機嫌になる



高次脳機能障害の治療方法

認知リハビリテーションの原理

- 回復メカニズムに基づいた認知訓練
(再生、可塑性に基づく訓練)
⇒できないことを、できるようにする
- 残存能力を用いた認知訓練
⇒残った能力をさがす
- 環境整備
⇒行動を受け入れる



高次脳機能障害のある方への 作業活動の支援

特定非営利活動法人いきいき練馬
ウェルネス アンド ワークス
管理者 久保美希子

職員が気を付けていること①

- 「前にもやったでしょう」「前にも伝えたでしょう」
は言わない、同じことでも何度でも繰り返し
繰り返し伝える
- 「間違っています」というような否定的な
印象を与える言葉は使わない

職員が気を付けていること②

- 落ち着いた雰囲気の中で、ご本人たちが安心した気持ちで作業ができるようにする
- ご本人たちの中に「間違えてしまうかもしれない」「忘れてしまうかもしれない」という不安があることを踏まえておく
- 責任のある仕事をしていく中で時に間違いを指摘して、その場ですぐに修正してもらうこともある、そうした時に関係を壊さないためにも、普段から信頼関係を築いておくことも大切である